

新井 信(あらい まこと)先生のプロフィール

- 勤務先 東海大学医学部東洋医学講座(2005年より准教授)
- 経歴 東北大薬学部、新潟大医学部卒業、東京女子医大消化器内科同附属東洋医学研究所を経て、現勤務先に。
- 専門 東洋医学全般
- 著書 『症例でわかる漢方薬入門』(日中出版)



◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

私の父は埼玉県秩父市で今でも薬局を経営しています。
当時、父は漢方を独学で学び調剤室にはたくさんの生薬がならんでいました。

そんな父の後ろ姿を見て育った私は、小学6年生の文集『10年後の私は「漢方の魔術師」になっているだろう」と書いた記憶があります。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

今は東洋医学を専門にしていますが、初めは東京女子医科大学消化器内科に入局し、腹部を中心に全身管理が必要な消化器内科のトレーニングを受けたことで、西洋医学と漢方の両方の眼で自信を持って患者を診ることができるようになりました。

◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

大学病院漢方外来という立場上、現在は漢方薬9、西洋薬1くらいの割合で処方しています。

◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

国が推進するプライマリケアの中に、漢方と西洋医学が融合した日本型統合医療として広く普及するようになると思いますし、日本型統合医を育成するための大学機関が全国各地に数多くできるだろうと想像しています。

◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なされたことがありますか

私が漢方を専門として以来17年間で一番の著効例が自分自身の治験です。
2006年に突然右背部痛を生じ、専門医に良性脊髄腫瘍と診断されました。

経過観察だと言われたため、とりあえず八味地黄丸と柴苓湯を服用していたところ、1カ月半で症状が消え、3カ月で腫瘍が消失してしまいました。

その後、再発もありません。



脊髄腫瘍に漢方薬が本当に効いたかどうかわかりませんが、一人の患者として嘘のような有り難い経験でした。詳細は下記に報告してあります。

続・女子医大雑話44(181) 学会で報告した3症例. 漢方の臨床 56(7): 1134-1142, 2009.

◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

漢方で一流になるためには、西洋医学でも一流であるべきです。
漢方と西洋医学2つの医学のエキスパート、すなわちバイリンガル医師を目指して頑張ってください。

◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

病気は薬に治してもらうのではなく、自分自身で治すものだという発想の転換が必要だと思います。

人間は自然治癒力という信じがたい能力を持っています。
それをどこまで高められるか、漢方治療は間違いなく、そのお手伝いができます。

◆座右の銘、好きな言葉などありましたら教えてください

「劇病を劇視すること勿れ、必ずや劇中の易を察す。」
和田東郭『蕉窓雑話』

◆その他何かご意見などありましたら、お願いいたします

みなさん、とにかく漢方を楽しんでみてください。

漢方薬は一つひとつが異なった味や香りを持ち、服用した後の治り方もさまざまです。じっくりと観察してみてください。

受動的ではなく能動的に漢方と接してみると、漢方がとても面白くなります。



注意：先生へのインタビューは、当会が2010年3月に行った内容です。